

結核の常識 2008

長引かせきは、
赤信号!!

結核予防週間 9月24日(水)~30日(火) 財団法人結核予防会 (JATA)

みんな注目!!

結核は過去の病気ではありません

結核は、戦後の結核予防法に基づいた総合的な対策が効果をあげて、昭和50年代前半までは、死亡率や罹患率が順調に低下していました。しかしその後は、罹患率の減少速度が鈍り、平成9年には、ついに新規罹患患者数が前の年を上回ってしまいました。今だに1日に70人以上の人が発症し、6人が命を落とす依然として人々の健康を脅かす感染症であり、決して過去の病気とは言えないのです。

■こんな症状があったらすぐ受診

長引くせき(2週間以上)

たんが出る

微熱(2週間以上)

倦怠感(2週間以上)

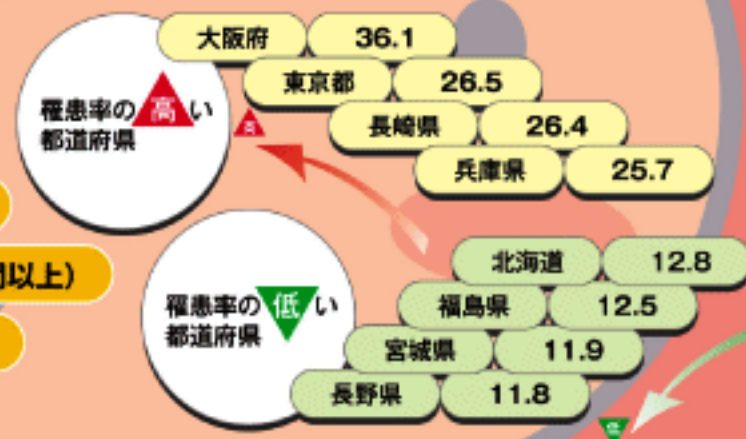
胸痛

体重減少

■罹患率の地域格差が拡大

大都市部の罹患率(10万対)を詳しくみると、大阪市(57.0)、神戸市(32.3)、東京都特別区(29.8)で、それぞれ長野県(11.8)の4.8倍、2.7倍、2.5倍となり、国内の地域間格差は依然として大きいと言えます。

～平成18年結核発生動向調査(概況)～



感染が防げるの？
どうしたら

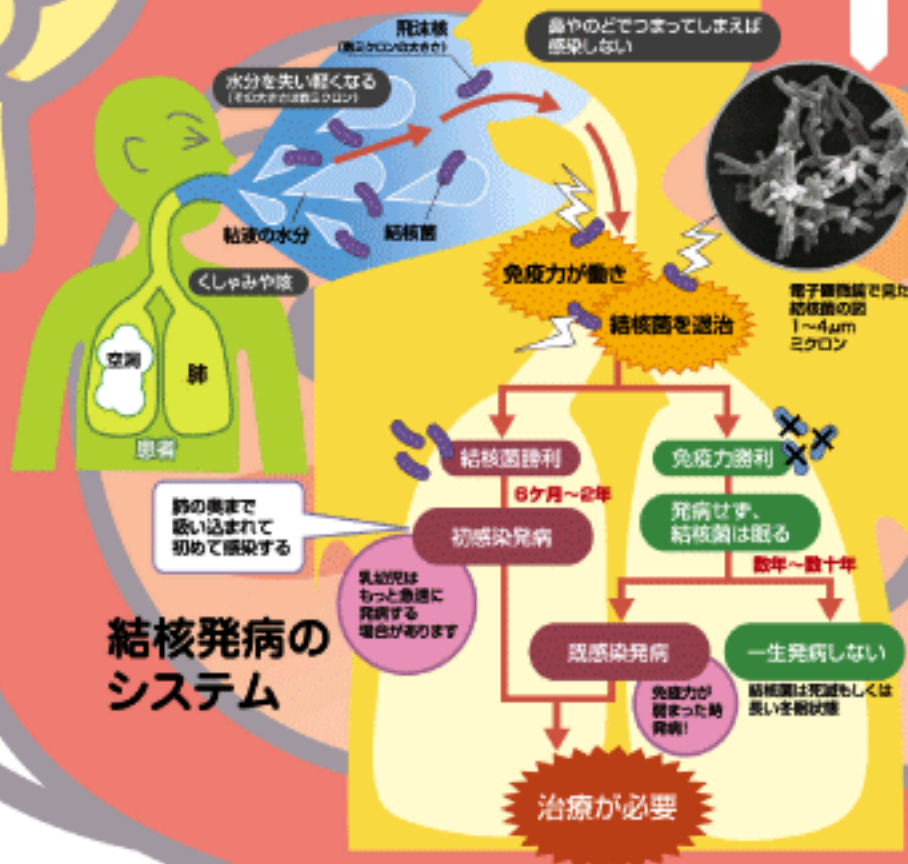
結核はくしゃみやせきから広がります

結核とは、結核菌によって、主に肺に炎症を起こす病気です。結核菌は、重症の結核患者がくしゃみやせきをしたときに飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって感染します。

しかし通常は、免疫機能が働いて菌の増殖を抑え、発病はしないですみますが、免疫力が弱まっていると発病してしまいます。

■周りの人にうつさないためには

「結核かな?」と思ったら医療機関を受診し、治療を開始することが大切です。また周りの人にうつさないために、マスクをしましょう。薬を飲み始めると結核菌は激減し、人に感染させる危険性が少なくなります。



よせつけ
結核菌なんて
ない!!



予防にはBCG接種を!!

結核を予防するためには、BCG接種が有効です。生後6か月までに接種しましょう。

抵抗力の弱い赤ちゃんは、結核に感染すると重症になりやすく、生命を危うくすることすらあります。

■早期発見が決め手!!

結核は、早期に発見して治療を始めれば、怖がる必要はありません。2週間以上せきが続くようであれば結核を疑い、まずマスクをし受診しましょう。病気の重症化を防ぐだけでなく、家族や職場など大切な人たちへの感染拡大を防ぐためにも重要です。

治療はDOTS療法で!!

DOTS (ドッツ)とは、直接服薬確認療法のことです。医療従事者が、患者に薬を処方するだけでなく、患者が服薬するところを目の前で確認し支援する方法です。

結核と診断されても、6か月間毎日きちんと薬を服用すれば治ります。しかし症状が消えたからといって、治療の途中で服薬をやめてしまうと、菌が薬への抵抗力をつけ、薬が全く効かない多剤耐性結核菌になることもあります。これを防ぐためにもDOTSは有効です。

まず
マスクを
してね



日本は中まん延国です

平成18年中に、新たに結核患者として登録された人は26,384人で、罹患率も減少がやや速まっているとはいえ、ますます高齢者に偏り、新たに発生する結核患者の約4人に1人が80歳以上の人となっています。

一方、若い人の結核も無視できません。20歳代、30歳代の人たちから4,486人(17.0%)の発症があり、この割合は過去3年間17%台

で変わりません。若者が結核菌に感染すると、発病が早まることがありますので、注意が必要です。特にHIV/AIDSは、日本では増加が続いており、HIV感染者やエイズ患者に結核菌が感染すると、命取りになります。

現在日本は、世界の中では依然として中まん延国とされています。

そんなに
多いのね

～集団感染の発生場所～

(平成17年度 集計結果)

2000-2005年
総件数253件



～結核新登録患者の3年間の動き～

	2004年(平成16年)	2005年(平成17年)	2006年(平成18年)
新登録患者数(人) <罹患率:10万対率>	29,736 <23.3>	28,319 <22.2>	26,384 <20.6>
0～14歳	117 (0.4%)	117 (0.4%)	85 (0.3%)
15～19歳	302 (1.0%)	284 (1.0%)	214 (0.8%)
20～39歳	5,266 (17.7%)	4,980 (17.6%)	4,486 (17.0%)
40～59歳	6,337 (21.3%)	5,896 (20.8%)	5,373 (20.4%)
60～79歳	11,489 (38.6%)	10,660 (37.6%)	9,946 (37.7%)
80歳以上	6,225 (20.9%)	6,382 (22.5%)	6,280 (23.8%)



世界では
2000万人もの
命が奪われ：

世界で猛威をふるう結核!!

世界では、総人口の約3分の1が、結核に感染しており、毎年900万人が新たに感染し、200万人が命を落としています。またHIV感染者の増加が、結核のまん延を加速させるなど、深刻な問題となっています。結核とHIV/AIDS、それにマラリアを加えた3大感染症は、全体で毎年約500万人の命を奪っています。

日本政府は2009年以降に、世界エイズ・結核・マラリア対策基金に対し、当面5.6億ドルの拠出を行うことを表明しました。



ストップ結核大使
ルイス・フィーゴ

「ストップ結核
パートナーシップ日本」
事務局創設



結核予防会は、
アジアの人々と協力して、
結核をなくすための
支援活動を行っています。



やり続けてね、
結核対策！！

手をゆるめず、やり続けることが大切！！

日本の結核罹患率（人口10万対20.6）は、先進諸国に比べると高く、先進国の今のレベルに達するには、20年から30年と言われています。手をゆるめず結核対策をやり続けないと、大規模な集団感染が起こらないとも限りません。

結核は、いまだ年間26,000人もの人が発症する最大級の感染症と言えます。

— 感染症法改正のポイント —

▶ 結核予防法から「感染症法」へ

平成19年4月より結核予防法は廃止され「感染症法」に統合されましたが、結核対策が後退することはありません。法律が変わっても、一人一人が結核についての正しい知識をもつ事が重要です。

▶ 「超多剤耐性結核菌」の出現

「超多剤耐性結核菌」とは、結核の治療に使われる主要な薬剤のうち、4種類以上の薬が効かない結核菌で、東ヨーロッパやアジアを中心に広がりとつあるとしてWHO-世界保健機関が警戒を呼びかけています。日本では近年、入院患者の0.5%から「超多剤耐性」の結核菌が検出されたことが結核研究所の調査で分かりました。

■ 最近の傾向

1 感染者がますます高齢化

1990年代は、60歳代が最も多かった結核患者は、2001年には70歳代、2006年には80歳以上にシフトしています。これらの人々は青年期に感染し、再び感染し生活習慣病などのリスクを持っていて、治療が難しいのです。

2 若者の結核が増えている

20歳代の罹患率は、急上昇しています。これは都会への移動、海外との交流、アルバイト、不特定多数の人が出入りする場所を利用するなどが、感染の機会が増える原因と考えられます。不規則な生活も発病のリスクを高めます。

3 外国人の割合が拡大している

公衆衛生上未整備な国から入国する若者が、悪い環境で働き、受診や治療の機会がないまま、感染を拡大していると考えられます。

4 働き盛りの人の発見が遅れる

職場の中堅として多くの人と接しながら仕事をし、また家庭では親の年齢である働き盛りの人の発見の遅れは、次世代に結核を残すことになります。またホームレスなどもこの中に含まれます。

5 地域格差がある

